

# 中山町誌 目次

序	文	中山町長 宮田眞實	一
中山町地図	中山町大観その他口絵数葉		一
<b>第一篇 町の概観</b>			
第一章 町の概観			一
第一節 町の位置と面積			一
第二節 地勢			二
第三節 人口			四
<b>第二章 気象</b>			
第一節 気象の概要			七
第二節 異常気象と災害			一
<b>第三章 地質</b>			
第一節 西南日本の中央構造線			二
第二節 伊予郡の地質概要			二
第三節 地震につよい我が郷土			四
第四節 石切場のある永木			四
第五節 鈹泉			四

第六節 鉦脈	一六
第四章 生物	一七
第一節 植物	一七
第二節 動物	二三

## 第二篇 中山町の沿革

第一章 原始より中世まで	二四
第一節 原始時代	二四
第二節 古代	二五
第三節 上代	二七
第四節 中世	三一
第二章 近世	三七
第一節 概要	三七
第二節 郡村庄屋制	四七
第三節 大洲藩の沿革	四八
第四節 替地と郷土	四八
第五節 郷土の行政機構	四九
第六節 戸籍制度と郷土	五〇
第七節 検地と村高	五二
第八節 飢饉と救民	五三

第九節 幕末に於ける大洲藩の動向と版籍奉還	五六
第一〇節 大洲騒動と郷土	五六
第一一節 明治維新迄の沿革のまとめ	五八

## 第三章 近代

概 要	六一
第一節 明治時代	六二
第二節 大正・昭和前期	七〇
第三節 郡会・県会・国會議員選挙と町	七六
歴代村長・歴代助役・歴代収入役・歴代町村會議員名簿	八六
第四節 兵事(付 戦没者名簿)	一〇二

## 第四章 現代

概 要	一八
第一節 行政の改革と機構	二一
第二節 各種委員会並びに団体等	二二
第三節 官衙及び公署	二四
第四節 町勢並びに財政	二四
第五節 合併後の建設業績	二六
第六節 合併後の自治機関	二九
第七節 郷土の将来を約束するもの	三一

### 第三篇 産業經濟

第一章 産業人口	一三四
第一節 藩政まで	一三四
第二節 近代から現代へ	一三四
第二章 農政	一三六
第一節 概説	一三六
第二節 終戦後の農政	一四一
第三節 新しい農政	一四九
第三章 農業	一七〇
第一節 概説	一七〇
第二節 農業技術の発達と農業の機械化	一七一
第三節 特産中山栗	一七三
第四節 普通作物	一七八
第五節 果樹	一八〇
第六節 蔬菜園芸	一八二
第七節 特用作物	一八三
第八節 農家の副業	一八三
第四章 林業	一八六
第一節 概説	一八六

### 第四篇 社会

第二章 林野面積並びに林業従事者	一八七
第三節 森林資源	一八九
第四節 木炭	一九一
第三章 商工業と金融	一九三
第一節 概説	一九三
第二節 工業	一九四
第三節 商業	一九七
第四節 金融	一九九
第四章 鉱業	二〇三
第一節 概説	二〇三
第二節 鉱産物	二〇八
第三節 鉱石搬出	二一一
第五章 産業諸団体	二一三
第一節 農業協同組合	二一三
第二節 森林組合	二二一
第三節 商工会	二二二
第六章 教育	二二四
第一節 江戸時代の教育	二二四

第二節	小学校教育	二三五
第三節	中学校教育	二四一
第四節	高等学校教育	二四七
第五節	青年教育	二四九
第六節	社会教育	二五一
第七節	教育委員会	二六〇
第二章	交通運輸と通信報道	二六一
第一節	近世の交通運輸	二六一
第二節	近代の交通運輸	二六二
第三節	通信	二六九
第四節	報道	二七二
第三章	治安と消防	二七四
第一節	治安	二七四
第二節	消防	二七五
第四章	厚生	二七七
第一節	沿革	二七七
第二節	施設	二八〇
第三節	疾病	二八二
第四節	出生・死亡の状況	二八三

第五章	宗教	二八五
第一節	神道(神社)	二八五
第二節	仏教(寺院)	二九二
第三節	その他の宗教	三〇四
第四節	信仰	三〇六
第六章	民俗	三〇七
第一節	年中行事	三〇七
第二節	衣食住	三一〇
第三節	出産・婚姻・葬儀	三一九
第四節	スポーツと娯楽	三二三
第五節	郷土芸能	三三二
第六節	俚諺・民謡・伝説	三三九
第七節	方言	三四六
第七章	名所・旧蹟	二四九
第一節	名所	二四九
第二節	旧蹟	二五二

### 第五篇 人物

桑原探底 (三五七)	窪中友吉 (三五八)	太森只衛 (三五九)
豊谷大治郎 (三六〇)	鷹尾吉循 (三六〇)	玉井浩三 (三六一)

城村 スギ (三六二)	森平萬次郎 (三六三)	奥村唯次郎 (三六四)
鷹尾寅太郎 (三六五)	松本萬藏 (三六六)	中岡 伝吉 (三六六)
森井苦三郎 (三六七)	妻鳥暁太郎 (三六八)	大塚節治 (三六九)
小西平内 (三七〇)	五島キヨミ (三七一)	山岡 栄 (三七二)
城戸庄五郎 (三七二)	重兵衛の妻 (三七三)	西宮栄太郎 (三七四)
武智金次郎 (三七四)		

中山町年表……………三七五  
 あとがき……………三八一



## 第一篇 町の概観

### 第一章 町の概観

#### 第一節 町の位置と面積

松山市より南西に国道五六号線は延びている。市で車に乗り土橋・土居田・余土・岡田と坦々たる舗装道路を走り東洋レヨンの町松前に入る、これより地蔵町・伊予市と昔ながらの町並をぬってアスファルトの道路がときどき急に車の動揺がはげしくなると伊予市の町並をはずれ、市場・大平と谷あいの幅員五〇六米のこぼこ道になり犬寄峠の急坂にさしかゝる、通称センマイとよばれる急カーブにつぐ急カーブ、最近カーブのところを切取工事によつて改修はしているが、バスに乗ってはじめて通る人はいずれもきもをひやす難所である、こゝからが我が郷土中山町である。

急坂を登ること二十分頂上につく、今きた路をふりかえれば羊腸たる道路が、足許からはるか彼方に連々としてつ

らなり、松山市を中核として臨海にひろがる工場地帯の眺めは峠を越す人の眼に慰めを与えてくれる。

犬寄峠を境として川は南流し佐礼谷を通過した流れは、秦皇山と黒岩嶽の間を破り瀬戸風・紅葉谷の溪谷美をつくり中山盆地の中心に達する。川は町の下で栃谷川・永木川と合して内子町・五十崎町・大洲市を経て、長浜町に肱川としてそそぐ。

伊予郡の最南端、政治的、経済的に現在では松山市・伊予市方面と関係が深く、衆議院議員の選挙区では、第一区で中子に属するが、旧藩時代は大洲藩下で言語、風俗、習慣等大洲市に近く、南子の匂いもあり、中子と南子の漸移地帯的性格をもっている。

東は伊予郡広田村、北東は砥部町、北は伊予市、西は双海町に接し、南は喜多郡内子町に接している。

東西約一三軒・南北約一二軒略々菱形をなし、面積七四